

## 筑波大学の寄宿料値上げに関する説明会を批判します

筑波大学学生宿舎に入居中の学生有志

2025年12月10日に発表された寄宿料値上げに関して、2026年1月20日に学生に対し  
値上げ発表後初めてとなる説明会が行われました。

### ①「信頼が守れないなら出て行って」「ステークホルダーが外にいる」

説明会前半で副学長はこのように強く念押ししました。学外のステークホルダーの信  
頼を損なうために、録音・録画・外部への流出を禁止するというのです。副学長は宿舎  
を単なる事業としかみなしていません。出資者の顔色を窺うばかりで、まさしく宿舎利  
用のステークホルダーである学生を置き去りにしています。

### ②「全代会で議論しろよ」と言いながら「対応はもうできない」

筑波大学には、学生生活全般に関する学生の自治組織として「全学学類・専門学群・  
総合学域群代表者会議」（以下、全代会）が存在します。説明会で副学長は値上げに対する  
不満を、正当な学生組織である全代会を通じて大学と協議するようにと述べましたが、  
当の全代会は12月10日の告知以前に何も連絡を受けていません。全代会は在学生から  
集めた800件以上のアンケートに基づき、大学に値上げ凍結と協議を求める決議を1月7  
日に採択していますが、副学長は質疑でこの決議への対応は行わないと言っています。

### ③「学生さんが入る会議とかミーティングっていうのは存在しません」

質疑の場で副学長は大学の意志決定の場に学生が関与できるルールはないとしました  
が、2008（平成20）年度の改定の際には、学生に対し意見聴取会が3回程度開催され、  
約2年をかけて情報の周知が図られています。大学内部での決定だけで終わらせ学生へ  
の情報共有を図らなかったことは、宿舎運営において大学が学生を無視していることの  
表れです。

### ④「今年度で1億円、来年度から4億円の赤字」「会社だったら倒産だぜ、国が許すと思う か?」「宿舎閉鎖もあり得る」「(宿舎の赤字経営は)反省すべきだ・良識がない」

副学長は、今年度のうちに値上げをしないと1億円の赤字が出るうえ、その後も継続  
して4億円の赤字が出るとしきりに強調しましたが、積算の根拠となる資料を明らかに  
しませんでした。学生に十分な情報を提供しないまま、副学長は存続か廃止かの二者択  
一を迫ったのです。今まで整備予算を付けずに緩慢な運営を続けてきた大学側の責任を  
棚に上げ、「宿舎に住み続けたいなら黙って値上げに従え」と学生を威圧しています。

さらに留学生のなかには寄宿料と授業料の値上げを同時に経験した人もおり、修学継続が困難になった場合があります。留学生誘致を積極的に推し進めていたのは大学側であるにも関わらず、宿舎の黒字経営を優先して、筑波大学で勉学に励む外国人留学生の修学環境の悪化に目を背けるのでしょうか。

**⑤「特別法（国立大学法人法）があるから民間に適用されるもの（法律）は適用されない」「借地借家法の適用はノーです」「家賃ではなく施設使用料、契約ではなく使用許可」**

副学長は、このように独自の法律論をまくしたて、学生宿舎に住む学生の権利は保護されないと熱弁しました。しかし副学長の法律論はおかしなところだらけです。国立大学法人法があるから借地借家法などによる借主の保護がなくなるなどという話は聞いたこともありません。そもそも筑波大学学生宿舎の寄宿料は近隣の賃貸物件と比較してもほぼ同レベルであり、その点からしても、家賃でない・契約でないとの説明は受け入れられません。副学長の説明は、学生は細かい法律論など分からぬだろうとバカにして押し切ろうとしたものとしか思えません。

**⑥目標達成は「やってみないと分からない」、老朽化対策は「これから施設設備を調査」**

学生不在の意志決定を行いながら、大学は「新入生の入居率8割越え」などの目標を掲げています。宿舎に継続して入居している学生は、この目標からも疎外されています。学生は大学のほしいままに都合よく住居を変えられる存在ではありません。また値上げの根拠となった設備修繕費用について、大学は今後行う調査を経てから決定すると説明しています。これでは現在入居中の学生はどうに行われるか分からない修繕のために負担増加を強いられることになります。

このように、副学長の説明は学生の反論を封じるための高圧的なもので具体的な数値の提示もなく、議論の余地はありませんでした。仮に今後説明会が開催された場合でも、今回と同様の説明が繰り返されるのではないかと懸念しています。

大学の役割とは、知を集積し新たな価値を生み出すことです。学生の生活基盤を平然と破壊し、威圧的な態度で値上げを押し切ろうとする態度は、大学のあるべき姿から大きくかけ離れているものとしか考えられません。大学と学生が互いを尊重しながら、学生宿舎の今後の在り方を決定できる環境の整備を切に求めています。

以上